牛ヶ首神社(富山市)

牛ヶ首用水工事の守り神として創建













- ■牛ヶ首神社の牛の像
- ②今年の3月26日に開通した環状道路・草島西線が目の前を通る。
- 3 牛ヶ首神社の正面から。
- 4 羽根ピースフル公園北端から見る牛ヶ首用水
- 5長岡御廟前を流れる牛ヶ首用水

保することになった。計画は、神通川の亀ヶ淵に取 藩の婦負郡の農民は、新田開発のため新たな用水の 加賀藩と富山藩の両藩に属することになった。富 新川郡の一部ほかを分け与えられ、分藩することに 川の水を井田川に一旦入れ、その水を牛ヶ首用水に 入れ口を儲け、井田川まで新しい水路を掘り、神通 ね、神通川本流から水を取り入れることで水量を確 田開発の請願を行った。富山藩は加賀藩と協議を重 た八町村善左衛門を代表に、牛ヶ首用水の分水、新 開削を必要とし、最初の開削時の願人の一人であっ なった。これにより、富山藩が成立。牛ヶ首用水は、

発見し、善左衛門が、「これは神の助けであり必ず成 顔で現場を巡視していたところ、人夫達が牛の首を 最大の難所、 やりとげたという伝承に由来する。 功する」と人夫達を督励したことにより、 よ」と告げたので、そのとおりに埋め、翌日何食わぬころ、ある夜枕元に神が立ち、「牛の首を難所に埋め 「牛ヶ首」という名前は、八町村善左衛門が、 八ヶ山切り通しの工事で悩んでいたと 用水

成した。

けられた。 牛ヶ首用水は、 明暦元年(1655) に完 また、金屋村には古江(※以前からの用水路)と新江 取り入れるもので経費はすべて富山藩が負担した。

(※八町村へ水を送る新用水路)を分水する設備も設



年に、用水の本江がほぼ完成し、利常により「牛ヶ 御(おん)用水」と命名された。 年に、再び利常が現地で指示を与えたという。 り、婦負郡高田村地内に取入れ口を設けた。寛永9 川だけの取水から、井田川からも取水することにな 加により用水量の増加が見込まれたことから、 寛永16年、利常は隠居し、次男・利次は婦負郡と

この

出



は場所がわかりにくかった「牛ヶ首神社」は大きな通 りに向かい合うことになった。 今年3月26日に、富山市の環状道路・草島西線の 山岸間が開通したが、これにより、これまで

どをもとに牛ヶ首用水の歴史を振り返ってみる。 説明や「牛ヶ首用水文書目録」(富山市郷土博物館) ある案内板「牛ヶ首用水 古江(こうえ)取水の地」の ゆかりのある神社だ。羽根ピースフル公園の北端に 「牛ヶ首神社」は、その名の通り、「牛ヶ首用水」と な

水源からの延長は40㎞にも及ぶ。 している、富山市、射水市を流れる大規模な用水で、 牛ヶ首用水は、現在は神通川第三ダムから取水

加賀3代藩主・前田利常も力を入れ、寛永2年には 開発を願い出た。加賀藩は慎重に検討を加えて、寛表に近村33ヶ村の村役人が加賀藩に用水開削、新田 負郡・八町村善左衛門、同じく小竹村久右衛門を代 着工。飛騨から大工の水間甚右衛門らが招かれた。 鷹狩りを名目に現地を視察している。寛永3年春に この時の計画は、山田川に取入れ口を設けるもので、 から藩の費用で人夫を集める藩直営の事業であった。 願人3人を用水掛主附に任じた。婦負、射水、砺波郡 永元年(1624)8月、池内太左衛門を用水奉行に、 生産力を高めるために、射水郡・下村長左衛門、 江戸時代初期、神通川左岸一帯に新田を開発して 橋、水門、筒木、樋口、筧(かけい)、貫樋などが

が祀られたが、明治42年に合祀され、牛ヶ首神社と んえ)が完成してから富山藩によって新たに神明社 塚の久安寺の南に神明社を創建している。〔新江(し この年に、加賀藩は、開削工事の守り神として百

寛永4年には、計画の一部が変更され、 新田の増